

川部会 3 年（平成 25 年度～平成 27 年度）の活動成果と課題

川部会では、各モデルの課題についてポイントを整理している。各年の活動成果は、下記のポイント番号をベースにとりまとめた。

本川モデルの課題	家下川モデルの課題	地先モデルの課題
ポイント①：生き物の移動阻害	ポイント①：情報不足	ポイント①：活動環境の課題
ポイント②：河床のアーモアコート化	ポイント②：生き物の移動阻害	ポイント②：活動推進上の課題
ポイント③：川の微地形の多様性消失	ポイント③：生き物の棲みかの不足	
ポイント④：在来種の減少	ポイント④：水量不足	
ポイント⑤：外来種対策		

○平成 25 年度の活動成果

本川モデル

【①進捗】

- ・本支川合流部の現状を確認するため、安永川、市木川、加茂川、大見川の現地調査を行った。
- ・安永川合流箇所に対しては、「取り付け護岸のコンクリートの覆土」を提案し、国交省により一部護岸における覆土が実現した。
- ・渡合護岸補修工事の延長の大きいコンクリート護岸とブロックによる根固め工に対して、現場レベルで自然環境への影響を少しでも軽減できるよう提案し、国交省によりコンクリート護岸の延長縮小、ブロック工から捨て石工に変更された。
- ・水門段差のみが移動阻害要因となっている加茂川を WG で取り組む場所として選定した。



安永川排水樋門での意見交換の様子

【③進捗】

- ・豊田大橋下流～平戸大橋下流の区間について現地調査を実施し、「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめた。
- ・目標達成に向けて、低水路幅の取り扱いがキーポイントであることから、白浜工区のモニタリングがスタートした。



台風 18 号出水後のワンド形状確認

【⑤進捗】

- ・外来種の状況について情報共有した。

家下川モデル

【①進捗】

- ・現地確認を行い、家下川一承水溝一長池の移動阻害の状況について水位やゲート敷高の高さ関係を整理した。

【②進捗】

- ・矢作川本川との合流点にある矢板の一部を切り欠き、通水の状況や生き物の移動阻害の改善効果を確認した。

【③進捗】

- ・家下川リバーキーパーズの活動報告により、「草の植え付け」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」の設置効果を情報共有した。また、WG により越冬マスの設置効果が大きいことも確認した。



家下川合流点段差改善箇所の確認

【④進捗】

- ・現地での現況確認を行い、水源としての湧き水の活用、水を流すルートとして下水道管渠や用水路の活用等の提案を行った。



かい堀り調査による越冬マス設置効果確認

地先モデル

【①進捗】

- ・活動団体にヒアリングを行い、個別課題の解決策について情報共有した。

【②進捗】

- ・活動団体にヒアリングを行い、専門家リストの情報収集を行った。

本川モデルの課題

- ポイント①：生き物の移動阻害
- ポイント②：河床のアーモークート化
- ポイント③：川の微地形の多様性消失
- ポイント④：在来種の減少
- ポイント⑤：外来種対策

家下川モデルの課題

- ポイント①：情報不足
- ポイント②：生き物の移動阻害
- ポイント③：生き物の棲みかの不足
- ポイント④：水量不足

地先モデルの課題

- ポイント①：活動環境の課題
- ポイント②：活動推進上の課題

○平成 26 年度の活動成果

本川モデル

【①進捗】

- ・加茂川の段差解消について意見交換を行い、木杭による魚道の提案があった。

【②進捗】

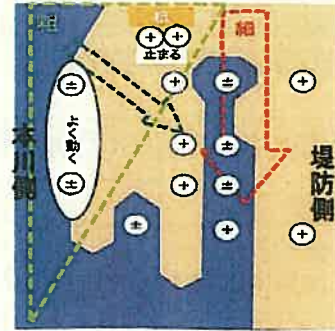
- ・総合土砂管理検討委員会における検討状況について情報共有を行った。

【③進捗】

- ・久澄橋下流の河道内の地形状況について、大同大学、国交省による現地測量を実施した。
- ・大同大学により、白浜工区のモニタリングが実施された。
- ・矢作川漁協とともに失われつつある瀬の状況を現地確認して課題を共有し、良好な河川（瀬淵）の状態に回復させるための方向性について矢作川漁協との意見交換をスタートした。

【①～⑤共通】

- ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会との情報共有・意見交換を実施し、矢作川のあるべき姿の検討を進めた。



土砂移動の基本パターン



矢作川漁協との合同現況確認

家下川モデル

【①進捗】

- ・家下川に関する管理者を整理した。
- ・流域圏懇談会の場が、関係者（愛知県、豊田市、豊田土地改良区、国土交通省、住民）の意見を収集し、合意のためのステーションとなった。

【②進捗】

- ・関係者との意見交換を行った。
- ・家下川下流域の段差改善について検討した。

【③進捗】

- ・関係者との意見交換を行った。
- ・承水溝の浚渫方法について提案した。



長池一承水溝の段差

地先モデル

【①進捗】

- ・活動団体にヒアリング及びアンケートを行い、個別課題の解決策について情報共有した。

【②進捗】

- ・活動団体にヒアリングを行い、専門家リスト（案）を作成した。



岡崎市ホテル学校の視察の様子

本川モデルの課題

- ポイント①：生き物の移動阻害
- ポイント②：河床のアーマーコート化
- ポイント③：川の微地形の多様性消失
- ポイント④：在来種の減少
- ポイント⑤：外来種対策

家下川モデルの課題

- ポイント①：情報不足
- ポイント②：生き物の移動阻害
- ポイント③：生き物の棲みかの不足
- ポイント④：水量不足

地先モデルの課題

- ポイント①：活動環境の課題
- ポイント②：活動推進上の課題

○平成 27 年度の活動成果

本川モデル

【①進捗】

- ・加茂川の移動阻害解消方法を模索・検討し、WGメンバーと国交省との協働で柵田式魚道を試行的に設置することとなった。

【②進捗】

- ・総合土砂管理検討委員会における検討状況の情報共有、先進事例の見学（小渋ダム）を実施した。

【③進捗】

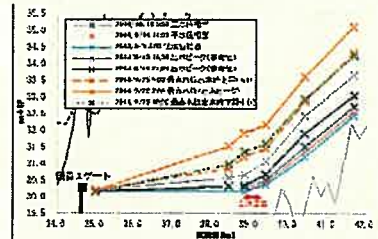
- ・大同大学により、白浜工区のモニタリングが実施された。

【①～⑤共通】

- ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会との情報共有・意見交換を実施し、矢作川のあるべき姿の検討を進めた。



小渋ダムの見学



白浜工区周辺の簡易水位観測結果
(流況別の瞬間縦断面水面形)

家下川モデル

【①進捗】

- ・愛知県豊田加茂農林水産事務所との意見交換により、解決策の一つとして家下川に生育する生き物に配慮した改修工事計画検討を促すことができた

【③進捗】

- ・家下川湛水防除事業の意見交換により、改修工事計画の中に前池内の水深確保のための浚渫や越冬魚の待避計画が盛り込まれることとなった。

【④進捗】

- ・風車式の揚水機を用いた長池水量確保についての提案があった。



家下川湛水防除事業に関する意見交換

地先モデル

【②進捗】

- ・インターネットにより情報収集した活動団体リストが作成された。

○今後の課題

本川モデル

- ・意見交換やモニタリングの継続
- ・関係する自治体における今後の河川利用等に関する計画の確認
- ・課題に対する進捗状況の整理と役割分担の明確化

家下川モデル

- ・関係する管理者を交えた検討
- ・他支川での活動展開のための成果の整理

地先モデル

- ・リストの定期的な更新
- ・「山村再生担い手づくり事例集」との連携